

一般会計予算決算常任委員会
総務文教分科会記録

令和2年9月14日

【開催日】 令和2年9月14日（月）

【開催場所】 大会議室

【開会・散会時間】 午前10時12分～午前11時39分

【出席委員】

分科会長	河野 朋子	副分科会長	伊場 勇
委員	奥 良秀	委員	笹木 慶之
委員	中岡 英二	委員	長谷川 知司
委員	山田 伸幸		

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

なし

【執行部出席者】

なし

【事務局出席者】

事務局次長	石田 隆	議事係長	中村 潤之介
-------	------	------	--------

【付議事項】

- 1 議案第78号 令和元年度山陽小野田市一般会計歳入歳出決算認定における事業評価について

午前10時12分 開会

河野朋子分科会長 はい、おはようございます。ただいまから、一般会計予算決算常任委員会総務分科会を開催します。分科会では、2日間にわたって決算審査、審査事業を対象に決算の審査を行ってまいりました。一通り全部終わったところですが、本日は、審査対象事業15事業に対しまして、分科会としての評価をまとめたいと思って分科会を開催しています。それぞれ、委員それぞれが個人的に審査対象事業について、もう評価してきていただいているわけですが、本日はそれを分科会

としてまとめて、委員会に提出したいと思いますので、議論をよろしく
お願いします。それでは、まず始めに、対象事業の1番、2番、3番も
ちょっと連動しておりますけれども、市役所の本庁舎耐震改修事業につ
きまして評価をまとめたいと思いますので、御意見のある方はお願いし
ます。行政側の評価としましては、現状維持という評価が出ておるとこ
ろですけれども、審査を通しまして、皆さん何か御意見があれば。

山田伸幸委員 この度、今、実際に耐震改修の真っ最中で、いまだに続いて
いるわけですが、その最中に起きたのがコロナの感染症問題でした。残念
ながら、このコロナの感染症問題に今回の耐震及び全体的な改修が、余
り寄与していないなっているのはちょっと感じるどころが多々ありまし
て、その辺がもし特記事項内かどこかの部分で盛り込めればいいかなと
は思いました。以上です。

河野朋子分科会長 ただいま、コロナの対応についても検討すべき、特記事項
に加えてほしいという意見がありました。よろしいですか、その件は。
今後の方向性については皆さん、何か。行政側の評価は、今現状維持で
5番のところになっていますが、そこについて何か。

笹木慶之委員 今、山田委員からもありましたが、私が決算審査の中で、もう
既に言いましたけれども、意見として。執行部は、次の計画の中に盛り
込むような形を言われました。やはり、防災という中では、防疫の関係
も入ってきます。ということで、防災・防疫という対応を、やっぱり安
全安心のまちづくりにしっかり続けられていくような、今回の庁舎の改
修であってほしいと。これは将来の課題ですね。ということで、それにつ
なげてほしいという部分は、もちろんコロナという表現でいいと思ひ
ますけど、そこにつなげて、必ずそれはやってほしいと思います。

河野朋子分科会長 今後の方向性というところで、やはり安心安全、適正な、
そういった事業を推進していただきたいということ、今後の方向性の

ところに入れるということによろしいですか。

長谷川知司委員 今後の方向性のところに、やはり災害時の機能確保を求めると。これは大事なことだと思うんですね。ただ、あの近辺の住民から見れば、災害時に、この庁舎も一つの避難場所と思って来られる方が多いんですね。そういう対応ができていたっていったら、それはちょっとクエスチョンだと思うんですね。庁舎そのもの、それから、対策本部の機能は強めたとしても、近隣住民に対する避難場所的な施設としても考えるべきではないかということで、拡充が必要かなと思いました。

河野朋子分科会長 そういう意味での拡充を求めるということで、成果についての拡充が必要ではないかということで、災害時の機能を確保すべきということですかね。

山田伸幸委員 残念ながら、当初の設計図ができたときの総務委員会での議論に私は参加しておりませんでしたけれど、やはり今言われた避難所機能として、あるいは、今ちょうどコロナの感染が広がっている中で、感染にも配慮された改修も必要ではなかったかっていうのをつくづく感じていますので、何らかの、総務委員会としての意思表示がここでも要るんじゃないかなってということで、今後の方向性にそういったことが若干盛り込まれていくほうがいいのではないかなと思っています。

伊場勇副分科会長 長谷川委員がおっしゃっていた、改修中に災害が起こったときの対応もしっかりと考慮すべきというところは、特記事項か方向性のところにしっかり書いたほうがいいかなと思います。

河野朋子分科会長 それは特記事項になりますかね。特記事項に災害中、改修中に災害が起きた場合の対応をしっかり取るべきということの特記事項に加えるということでもいいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）ほかにありますか。この点について。方向性としたら現状維持ということですが、

更に特記事項にそういうことを追加するということがいいですか。

奥良秀委員 あくまで今これをやられているのが、市役所の耐震改修事業にうたっておりますので、今まで市の工事でいろいろ問題があった中で、安全で適正、的確な工期もありますけど、工事がきちっとできるように、きちんと監視をしていきたいと思っておりますので、その方向性でいいと思います。

河野朋子分科会長 工事の遅れについて、審査のときにも少し議論があったんですけど、やはり工事着手が遅れたことについて、もう一度そういったことについての再確認というか自覚、それから、この令和元年度の評価ですので、令和元年度については工程に遅れがあったということは事実で、それについての評価もこのようにBとなっていますので、令和3年度以降しっかりとそういったことに対しての対策を取って、影響がないようにしていただきたいということも付け加えるということによろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）ほかに何かこの工事、事業について。3事業についてよろしいですか。その3事業については、そのようにまとめたいと思います。

長谷川知司委員 1、2、3一緒ですね。老朽化対策——2について、ちょっと一言お願いがあるんですが、やはりどうしても改修となりますと、新築とは違うということで、市民がこの庁舎に対して愛着とか誇りが持てるかといったら、ちょっと難しい面がありますが、費用の面もありますから、そういう面から見れば、工事費の1から2%以内で、例えばライトアップができるようにするというような施設にさせていただくと、東京都等とかいろんなところが、庁舎から光の発信をしておりますが、そういうように庁舎からもアピールできるような施設があったらいいかなと思います。市民に分かりやすいような。

河野朋子分科会長 今、そのような意見が出ておりますが、それについて皆さ

らどうですか。費用とかもあります。

山田伸幸委員 アイデアとしてはいいなと思うんですけど、ただ、本市のこの市役所の建物の建て方が、低くてランドマーク的にはなっていませんよね。ですから、その辺がどうかなっちゃうのが、不安が若干あるんですけど、長谷川委員はどう思われますか、その辺は。

長谷川知司委員 ここ今、皆さん、私たちがおるのは3階ですけど、階段が5階まであるわけですね。そう考えてみれば、その5階部分を照らすことによって、様々な表現ができるし、建物全体も下からライトアップすることも可能だとは思っています。ただ、今言われますように、高層ではないですからそれなりのことしかできませんが、それなりのことでいいと思うんです。余りに金を掛けて、ばさっとせいっていうんじゃないくて。

河野朋子分科会長 今、急に出た話なので、ちょっと、これについて深めるわけにいかないんですけど、いずれにしても、改修したことによって、市民が庁舎に対して、何かこう、思いをはせられるような何か新たなものを工夫してほしいっていうことなんですかね。どういうことですか。

長谷川知司委員 改修したと市民が分かるように、具体的な方法もしてほしいと。

笹木慶之委員 今までなかった新たな発想で、なるほどと思います。だから、ある部分に固定しないで、そういったイメージでもって庁舎を温めてほしいと思いますので、是非書いておいてもらいたいと思います。

河野朋子分科会長 老朽化のところに付け加えましょうか。改修によって、市民にそれが分かるような、何か工夫があればいいということですね。3事業については、よろしいですか。では、(「はい」と呼ぶ者あり)4番目の、FM波によるJ-ALERT情報伝達事業ですね。これについて

は、何か特に御意見がありますでしょうか。

笹木慶之委員 合理的、経済的な手法で、FM波によるJ-ALERTの情報伝達事業が、安全安心の度合いを高めるということに非常に貢献すると思います。したがって、できるだけ早く完了してほしいということが願っていますが、もう1点は、今の公共施設だけに限らず、民間企業にも放送設備があるわけで、そちらにもいろいろ協議してもらって、できるだけ参加いただいて、そして、一同にして市民が皆、その度合いを知るということを是非とも手掛けてほしい。それが、ある面では市の売りになるんじゃないかなと思いますので、そういったまとめ方をしてほしい。

河野朋子分科会長 今、今後の方向性なども言われましたけど。

山田伸幸委員 この間、やはりあの大雨のときに、何度かFM、じゃなかった携帯電話に注意喚起が入りましたけれど、残念ながら、夜中はなかなか分かりにくかったかなと思っています。地震の場合に発信するのは大きな音がしますのですぐ分かりますけど、その辺に何かもう一工夫が必要かなっちゃうのは感じています。

河野朋子分科会長 今後の方向性については、行政の評価は現状維持となっていますが、特に何かこれ以外の意見がありますか。なければ、現状維持ということでもよろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）その理由としては、先ほど笹木委員からありました合理的、経済的な手法によって安心・安全性を高めるためにも、早期完了すべきではないかという理由で、この現状維持を進めてほしいということでもいいですかね。（「はい」と呼ぶ者あり）それから、先ほど少し笹木委員からもありましたけど、今後の整備を各機関や民間企業との連携をしっかりと進めていってほしいということもありましたが、この点についても、特記事項で挙げてよろしいですかね。（「はい」と呼ぶ者あり）ほかに、何かこの事業について、特に入れてほしいことがあれば。いいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）では、

5番目の災害対策本部等強化事業に移ります。これについても、行政の評価は現状維持となっておりますが、何か特があれば。

中岡英二委員 災害がこれから頻繁に起こってくると思うんですけれども、本部の体制を強化することはもちろんですが、評価と同時に具体的な模擬訓練を実施することが大事だと思います。そこで現状維持としていますが、やはりその辺を加えていただきたいなと思います。

河野朋子分科会長 今、模擬訓練の実施についての要望がありました。

奥良秀委員 私も同意見で、ハード面では準備が着々と進んでいるんですが、それをこなせるかどうかで、やはり模擬訓練でソフトの部分を強化していくべきだと思いますので、この評価、方向性でお願いしたいと思います。

河野朋子分科会長 現状維持で、しっかりと今のようなことを考慮して進めてほしいということですね。ほかに何かありますか。

笹木慶之委員 私も一応、現状維持なんですが、ただ、この強化事業に携わるのは職員なんですよね。やはり、職員の安全性を強めていかないと、特に職員が広範な地域から入庁されておるということも含めて、その地域に不慣れなことが予測されますので、ライフジャケット、それから、河川関係については、可能な限り監視カメラによって、その状況がつかめるような方法を更に進めてほしい、強化してほしいと。それを全て、災害対策本部のモニターで見られるような形にして指示が出せると。については、現地とのやりとりはスマートフォンで対応できるということもやっているようですから、その辺りが評価につながるんじゃないかと思っています。その点、よろしくをお願いします。

河野朋子分科会長 今、職員についての安全対策の件で、ライフジャケットや

監視カメラを設置すべきじゃないかっていうようなことを特記事項に加えるということでもよろしいですかね。（「はい」と呼ぶ者あり）

山田伸幸委員 災害対策本部で話し合われたことが、どれだけ市民にすぐに伝わるかということが大事だと思っています。今、市ではスピーカーを付けた車が走るようになっていて、4方向に向けてスピーカーで放送していくということなんですけど、やはり必要なところに必要な情報がきちんと届いていくかどうか。これも災害級の大雨なり台風なりといったときに、本当にスピーカー機能でできるかということがありますが、まだまだ、そういうシーズンも続いておりますので必要かなと思います。

河野朋子分科会長 これについては、スマートフォンをそれぞれのところに配備してするという事業についての評価ですので、その辺り、何かありましたら。

伊場勇副分科会長 スマートフォンについて、もし不感地域でアンテナが災害に遭ってしまったときは、情報も大切なライフラインの一つなので、そういったところの対応も現実的な対応を検討すべきと思います。

河野朋子分科会長 これについては、今後の方向性は現状維持ということで、今、様々な意見が出たことは特記事項に、模擬訓練やスマートフォンの不感地域への対応や職員の安全対策といったところを特記事項に書き込むということで。今後の方向性については、現状維持ということなので、特に何か強い理由っていうのは、よろしいですかね。（「はい」と呼ぶ者あり）では、5番目の事業を終わり、6番目の中山間地域づくり推進事業についてどうでしょうか。この事業については、いろいろ審査のときに意見はありましたが。

笹木慶之委員 これについては、拡大拡充という方向性を求めています。と申しますのは、もう全国的に見て、かなり遅くなっているんですよ、対

応が。極めて遅いということで、県下でも、隣の自治体辺りでもものすごく進んでおると思いますが、しかし、それは嘆いても仕方ないんで、これからもっと積極的に取り組んでほしい。もう1点は、中山間の定義と中山間づくり推進事業の中の地域おこし協力隊の部分が、少し食い違いが起きているようです。ですから、この動かし方は地域おこし協力隊の配備から入っていくわけですが、それは全市において対応できるようですから、本市のいい面はこれから残っていくように、そういったものを活用しながら、まちづくりが進められていくような形で、更にこれを強化して進めてほしいと思います。大体そういうことで、拡大拡充で捉えています。

河野朋子分科会長 そういった意見が今出ましたが、どうですか。

山田伸幸委員 私も拡大すべきと主張したいと思います。やはり、本市の一番遅れた部分ではないかなと。スマイルシティを掲げていながら、それが内に閉じこもっているのではないかと。やはり、より魅力的なまちづくりの中で、この事業が更に推進されるべきだということで、更なる拡充を求めていると思います。

奥良秀委員 審査をした中で、中山間地域づくりという言葉と地域おこし協力隊という言葉にかなりのギャップを感じましたので、ここは縮小と。なおかつ、山陽小野田市としては、まちづくりは必ずしていかななくちゃいけないもので、これを中山間地域にとどまらず、山陽小野田市全域にやるべきだと思いましたので、ここでは、あくまで縮小と。ほかの事業として全市を取り込んだまちおこしを創出していくべきだと思いました。だから、今後はそういう新たなまちづくりの事業を考えて構築してやっていただきたいと思います。

山田伸幸委員 ここでわざわざ中山間地域づくり推進事業と出ていますけど、やはり、この部分が本市にとって最も遅れた部分ではないかなというこ

とで事業化しているんだと思うんですね。やはり、それはやっていかないと人口のアンバランスが当然起きてきますので、そこにはもっともっと力を入れて取り組むべきだというのが私の考え方です。

奥良秀委員 私も中山間地域を見放すという言葉を行っているわけではなく、中山間地域も一緒に山陽小野田市全体を見てまちおこしをしていけばいいという考えで述べさせてもらいました。

笹木慶之委員 ちょっと違った観点から申し上げますと、これは国、県を通した一つの事業が認められた事業なんですよ。窓口として進めようとするならば、やはりこれはいろんな面で重視せざるを得ないと。総合計画の中で市長は、地域のポテンシャルを生かした地域づくり、まちづくりと言っておられますが、やはりこの問題、さらには、後継者のいない事業や業種がある。これも、やはり将来にまちを残すための一つの材料として注視すべきじゃないかなと思います。とすれば、これらをいかに生かしていくかというその切り口が、この中山間地域づくり推進事業であると捉えるならば、先ほど言ったように拡大拡充させて利用したほうがいいかなと思ったわけです。一つの考え方です。

河野朋子分科会長 今そのように意見が出ましたが。

中岡英二委員 私は、この話合いの前は現状維持ということで、中山間地域づくり推進事業というのはイコール農業の推進と考えていました。でも、今、聞いてみると、笹木委員が言われたように、その地域のいいところを生かしながらとあり、また後継者の不足している職種というのはかなりあると思うんですね。そういうことにも対応していく事業であれば、私も拡大拡充のほうにちょっと変わりました。

長谷川知司委員 私も最初、勘違いしておりました、1次産業の後継者づくりと思っておったんですけど、逆にここは6次産業ということで、2次産

業、3次産業の中で何ができるかという形で連携していくのがいいかなと思います。やはり来られた方については、その人の人生をそこで過ごしていただくわけなんだから、やっぱりそれなりの体制をみんなで作るべきだと思います。

河野朋子分科会長 はい、そのように意見が変わってきたと。

伊場勇副分科会長 それと、地域活性化室だけで基本取り組んでいる今の地域おこし協力隊の事業の中で、やはり横の関係部局との連携、シティセールスといったところと取らないと、コマース力とかに欠けている部分が、他市との差になって募集人数の差になって今の現状があるのかなと思いますので、今後、しっかりとした連携を取って、積極的な取組が更に必要になると思います。

河野朋子分科会長 この事業は中山間地域づくり推進事業と名前があるとおり、そもそも、そういった中山間地域について、高齢化とか人口減少とかそういうものを解消していこうと。そういう事業の中で、地域おこし協力隊っていうのがその手段として取り上げられているわけで、地域おこし協力隊の事業だけに目を向けると、ちょっといろいろ混乱っていうか、分からなくなっていると思うんですけど、そもそも中山間地域を活性化させようっていう事業なので、この名前のとおり、その中であって、手段として地域おこし協力隊をうまく活用して、そういった地域を活性化させていくという事業ですよ。その辺りの共通認識はいいですかね。よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）ですから、中山間地域をちょっと活性化させようというこの事業についての評価です。

笹木慶之委員 確かに一つの事業と言われましたが、国からの流れを見てみると、中山間地域づくり推進事業という呼称についての中的手段は、地域おこし協力隊を使ってやるということが前提になっているみたいなんですよ。それがほとんど占めているような状態。ところが、一致していな

いわけですよね。食い違いがある。そうすると、中山間づくり推進事業としていたとしても、やはり全市を捉えたものの判断でもいいんじゃないかと。しかし、それにはさっき言ったように地域のポテンシャルを生かしたうんぬんということが計画の中に上がっているんで、そういったものの掘り起こしをしながら、やはり市のレベルアップをしてほしいというところなんです。だから、そういう感覚で捉えないとしようがないかなと思いますけどね。

河野朋子分科会長　そうですね。活動指標がちょっとすごく重点的にいろいろ議論されているので、ちょっとあえて言ったんですけど、そういった意味も含めてもっともっと活性化させるための取組を、コストも成果も拡大すべきというような意見が、ほぼ皆さんそういう意見が多かったようなので、そのようにまとめていいですか。その方向性については、何かありますか。方向性について、はい。いいですか。

奥良秀委員　審議されている中で、あくまで今、山陽小野田市が中山間地域をよりよくしていこうという話であるのであれば、評価を変えさせていただきたいと思います。ただ、審査している中では、山陽小野田市全体をやっていききたいという話もありましたが、実際問題は、中山間地域で山陽小野田市の山陽地区の中山間地域でまちおこし協力隊を使ってやっていきたいと思いますということがあったので、縮小と言わせてもらいました。

河野朋子分科会長　分かりました。ほかに、今の取組のところ、方向性について。

中岡英二委員　先ほど副分科会長も言われましたが、地域おこし協力隊の人員募集を掛けるのに、やはり部局でもっと横の連携を取って、一人でも二人でも多くの方を募集して、その中で事業推進に意欲のある方を是非とも採用していただきたいなと思います。

河野朋子分科会長 それでは方向性については、これ以上コストについても青果についても拡大の方向でやってほしいということ。方向性の理由としましては、そもそもこの事業の目的に書いてあるような地域のポテンシャルを生かしているというふうなことも感じられないし、後継者がいない事業や職種の継続策として、しっかり捉えてこれを拡充してほしいという意味合い、そういう方向性で捉えていいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）それから、先ほど事業に対しての姿勢についていろいろ出てきていたので、その辺り、何か特記すべきことがあればお聞きしますけど。他部局との連携が必要ではないかという意見も先ほど出ましたよね。もうちょっと積極的にやるべきじゃないかとか、そういう人材を入れるべきじゃないかという意見もありました。

山田伸幸委員 今言われたとおりで、本当に貧弱な体制では成果は上がらない典型例かなと感じています。

河野朋子分科会長 そういった体制をしっかりと取って、積極的な取組ができるように進めていってほしいということの特記しますか。それでいいですか。

奥良秀委員 ここも一生懸命勉強されているとは思いますが、やはりいろいろとそういう経験を積まれた方や、そういうところにたけた方にいろいろとレクチャーを頂いて、先ほど会長が言われたみたいに、地域おこし協力隊だけに隔てるわけではないんですけど、やるからには、ちゃんとしたというか本当の、どうなのかを見極められるような方を講師に呼んで、いろいろ勉強していただきたいと。だから、こういうふうに中途半端で終わるようなものはなくしていただきたいということは強く伝えていきたいと思います。

河野朋子分科会長 今回の審査の中で、これについては、結果が出なかったということもあり評価が低いので、積極的に取り組めるように研修なり他

市町のほうに行って参考にするなり、そういったことをしながら取り組んでいていただきたいということを特記してよろしいですか。(「はい」と呼ぶ者あり)では、次に行きます。7番の事業、移住就業創業支援事業について。これについて、方向性は、行政側としては成果を拡充させたということを出ていましたよね。ちょっと成果が上がっていなかったということもあり、コストは現状維持ということで示されておりましたが、これについて、委員の皆さんはどうでしょうか。

笹木慶之委員 この問題は今、6番目の事業とも関連してくるところもあろうかと思うんですけど、私はやはり、拡大拡充を望むということにしております。特に、成果指標の達成度がゼロ%で全く成果が上がっていないということを踏まえて、本当にもっと真剣に取り組んでほしいなど。真剣に取り組んでおられるんでしょうけども、もっと力を入れてほしいなどと思います。委員会の中でも申し上げましたが、もっと民間の力を借りてもいいんじゃないかなと。やっぱり地域の良さは行政だけでいいんじゃないしに、地域で起業しておられる方、住んでおられる方が、本当にこういう良さがあるよということを、行ってお誘いしてもらおうということにもっと力を入れれば、違った展開が見えるんじゃないかなと思います。それともう1点は、国が就業、創業等に関してのいろんな手当てをしておりますが、本市単独のそういったメニューが作れんのかなと。そうすると、やはり気持ちが少し傾いてくるかなという気がします。どういう方向かということは別として、そういったことも捉えていくべきじゃないかなということを特記事項として加えていただきたいと思います。

河野朋子分科会長 拡大拡充の意見が出ました。特記事項についても、今のようなことを入れてほしいということでしたが。

山田伸幸委員 やはり、これはこれからの山陽小野田市の在り方を左右するような取組だと思っています。新しい人が入ることによって、まちの活性化が大きく進んでいく典型例ではないかと思うんですね。特に、先進地

である県内での阿武町や周防大島町辺りでは、マスコミもすごく注目して、移住者に対して密着して、それを情報発信してくれる。これはよそでも、全国的にも同様にそういったことが起きていますので、やはり注目されない事業であってはならないと思っています。魅力的なまちづくりのために、そのお手伝いのために、自分もと思っただけのような事業でないといけないと思っていますので、更なる拡充が必要だと思います。

河野朋子分科会長 今、拡充についての意見が出ましたが、この事業につきましては、対象は東京23区在住者に限りということで、それ以外の移住・定住策というのはほかにもあるわけで、この事業に限ってどういうふうにしていくかという評価をしていただきたいと思えますけど、どうですか。拡大拡充についての意見は出ましたが、ほかにありますか。

奥良秀委員 私としては今現状、東京圏から山陽小野田市に来て、創業っていうのが、やはりいろいろ難しいのかなと。定住っていうのは、Zoom等々を使ってこちらに移住されて、仕事は向こうですよっていうのはあるんですが、なかなか仕事を新たに見つけて創業するというのは難しいと思います。先ほどどなたかの委員が言われたとおり、今ここに来られているいろいろな企業がありますが、そことやはり、事業協力等々をしながら、こういうものも今ないよねというような話し合いをしながら、新しい産業、事業を作っていけば、そこにまた新しい人が付いていけばいいのではないかと思います。ここでは、あくまで拡充をしていくのではなく、現状維持で今の事業の在り方をもう少し、東京のほうでいろいろ探してくるのでなくて、地元の企業とよく話し合いをする中で、どうしていけば新たに東京圏の人に移住してもらい創業してもらえるかを協議していければいいなと思いましたので、現状維持、現状維持でさせていただきます。

河野朋子分科会長 そういった意見も出ております。私も、ちょっと意見を。

全く今ゼロの状況で、そういったところから急に、コストにしても成果についても、すごく上げていくっていうのはかなり難しいハードルだろうと思いましたが、まずは身近なそういった隣町からこちらに来るとか、そういった定住、それをこつこつ増やしていくっていうこともしながらのことなので、ここにばかり集中して力を注ぐというのも難しいのかなという意味からして現状維持でいいのかなと思って書いたという意見もありますが、ほかの方はどうでしょうか。

中岡英二委員 私も現状維持と考えています。なぜかという、昨年の成果がゼロ、全く成果が出ていないと。そうした中で、東京23区に限れば、やはり難しい事業だなと思っております。しかし、事業としては継続して現状維持のままでやっていただきたいと思ひますし、先ほど会長が言われたように、この東京23区以外のいろんな方を呼べるような市になってもらいたいと思ひます。私は一応、現状維持で判断しました。

河野朋子分科会長 ほかの方、どうですか。何かありますか。難しい。先ほど、拡大拡充というのは、とにかくそういった成果を出してほしいということの表れで、まだそれが出ていない状況なので、取りあえずはやはり現状の目標を達成していくということが当面の目標ということ。気持ち的には、どんどん拡大拡充してほしいという気持ちはあるんですけど、取りあえず現状の目標をクリアというところでは、現状維持でよろしいですかね。（「はい」と呼ぶ者あり）先ほど、民間の力を借りる必要もあるんじゃないかというのがありました。そういったところは特記事項に書くということでもいいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）他市町に比べ遅れをとっているの、しっかりとそれらに負けない取組をしていくべきじゃないかということも特記事項に入れましょう。それから、先ほどちょっと、これは国の関係ですけれども、やはり本市独自で何かそういった取組が考えられないのかということも特記事項に加えていいですかね。（「はい」と呼ぶ者あり）ほかに、この事業について何か。よろしいですか。そのようにまとめます。では、時間が少したちましたので、休憩を

入れまして、11時から再開します。お願いします。

午前10時53分 休憩

午前11時 再開

河野朋子分科会長 はい、それでは分科会を再開しまして、審査対象事業8番のハロウィンイベント実施事業について評価したいと思います。御意見がある方は。この事業の今後の方向性について、どうでしょうか。

山田伸幸委員 私も行って注目をしておりましたけれど、期待外れというのが正直な感想でした。というのも、やっぱり参加者も非常に限られていて、私の地元の方々に聞いてみたところ、私たちには関係ないと、若い人たちだけのお祭りなんじゃろうかというのが印象的でした。実行委員会でやられたその意義は非常に高く評価しますが、やっぱり市民を巻き込んでいないというところでは、そういった方面への更なる努力が必要であったんじゃないか。やっぱり市民参加型といっても、非常に限られた参加ではなかったのか。夜も注目されておりましたけれど、用意した駐車場が全く埋まらないということもありましたので、そういった点でいうとアピール不足も若干あったかなというところで、今後の事業展開には、これまでのような予算を使ってとはいかないのではないかなと感じています。

河野朋子分科会長 ということは、方向性はどうですか。

山田伸幸委員 やっぱり市民へのアピールが足りないということですから、本当にこの事業を継続するのであれば、そういった努力が必要である。ただ、ハロウィンに特化するのはいかがかなというのは思っています。ですから、それが多くの市民が参加できる何らかのイベントに変わっていけばいいなという思いを持っています。

河野朋子分科会長 現状維持は難しいということですか。どちらにしても。縮小のほうですね。（「はい」と呼ぶ者あり）はい、分かりました。

中岡英二委員 成果の方向性は、拡充にしています。いろいろ先ほど言われましたけど、プロジェクションマッピングがちょっと期待外れだったとか、PR不足で知らない人が多かったとか、やはり若者をターゲットにしていますから、年齢の高い方にはちょっと参加しにくいところもあると思いますが、このハロウィンのイベントというのは、他市には余りない、若者を中心とした、また、若い夫婦が子供を連れて参加して楽しむという事業で、他市にはない事業です。特に1年目ですから、まだ知名度は高くないと思いますが、2年、3年続けていったら、やはり広がっていく事業じゃないかなと思っています。それで拡充と判断しました。

河野朋子分科会長 成果を拡充で、コストについては現状ということでもいいんですかね。（「はい」と呼ぶ者あり）このように、二つ違った意見が出ていますが、ほかの方は。

奥良秀委員 私は、今後の方向性は、休廃止と皆減です。このお祭りというのが1年目で、市職員の方も、また実行委員会の方も一生懸命やられたのはよく分かっています。ただ、担当委員会としていろいろな報告を受けている中で、アンケートといった今後につながるものも期待していましたが、本当にこれがアンケートになっているのかなという疑問もありました。また、一個人、一議員ですが、執行部と温度差がかなりあったのかなと。また、一つ例を出せば、プレスページでのプロジェクションマッピングの中で、ここ電気ついているよねというのが、本番でも電気がついている箇所がありました。だから、体制的に、1年間もないぐらいで良かったのかなというところもあります。お祭りを作るっていうのは、作るだけではなく今後続けていくっていうのがとても大事なことだと思っていますので、もう一度スクラップしていただいて、より良い山陽小

野田市を。これはあくまで人に注目を向けてもらう事業だと思っております。また、若い世代というのでも出ましたけど、山陽小野田市は高齢化が進んでいますので、そうではなく地域密着で若い人も年配の方も、いろんな人が絡み合っただけのお祭りを構築していただきたいと思っております。先ほども言いましたが、今後の方向性は休廃止と皆減ということで、もう一度よく考えられたほうがいいと思っております。

河野朋子分科会長 そのような意見も出ました。ほかの方も意見を。

笹木慶之委員 この事業は、本市の魅力をPRすると。その重要性はよく分かっているんですが、この手法が何に通じていくのかというところ、目的を持った対応がもっと必要じゃないかなという気がします。あくまでも、この事業は手段であって目的ではないと理解していますが、その中で、多分、定住促進にもつながるだろうと。というのは、これは観光事業と位置づけていますが、観光事業というのは交流事業なんですよ。交流事業を定住に結び付けるための手法と思っておりますが、最近特に、いろんな人が言われておることは、この間に関係人口というのをを持ったほうがいいんじゃないかということなんですよ。関係人口というのは、もっと市に関わりを持ってもらうということで、交流人口ではない、観光人口ではないと。その人たちが、市にもたらす影響力というのはかなり強いと言われております。だから、この事業は関係人口を目標としたような事業展開にするならば、現状維持でいいんじゃないかなと思ったわけです。そのようにお願いしたいと思っております。

河野朋子分科会長 今、そのように、かなり、いろいろ違った意見が出ているようです。もう廃止すべきではないかとか縮小すべきではないか、あるいは現状維持で中身、やり方とか目的とかいろんなことをもうちょっと再考すべきじゃないかというような意見がありました。ほかの方はどうですか。

伊場勇副分科会長 ハロウィン実施事業は2か年の計画で走ったもので、去年があつて今年ということだったんですが、今年はちょっとそうもいかなような状況の下、いろいろ前回は振り返ると、やはりいろんな問題点があつて、それを無駄にしないように、今年度ちょっと難しいので、その次の年度にしっかり検証も含めたトライをしてもらいたいなと思うので、コストの投入の方向性としては現状維持でいいのかなと思います。成果の点につきましては、笹木委員からもありましたが、もっと目的をしっかりと明確にすることと、去年やられたことについては、若年層の方々がしっかりと集まって楽しんでおられた姿というのは、なかなか本市には足りない部分だと思うので、若い人が楽しむことに高齢者の方も付いてこられる可能性もあるのかなとか、そういうふうな視点で見ると、もう一度、成果を現状維持で進めていただきたいなと思っています。

河野朋子分科会長 ほかには。大体出ましたか。今回、これだけ厳しい意見が出たのは、行政の評価はAなんですよ、ちょっと意外にも。目標達成率がAで、審査の中の説明を聞きましても評価は悪くはないという感じの答弁だったと思いますが、今お聞きするとかなり厳しい意見がこういうふうに出てきているという状況です。それで、副会長も言われたように2か年の計画ですし、若者をターゲットにした切り口ということで、それも含めて、これだけ厳しい指摘が出たということは、やはり令和元年度の反省を生かして、令和3年度に向けては、現状維持で。目的とか、先ほど言われました若者だけではなくて関係人口、そういったこととの関わりとかも考え合わせて、令和3年度も現状維持で取り組んでほしいというように、分科会として取りまとめたいと思います。しかし、先ほど、廃止や縮小といった厳しい意見については、特記事項にその旨を書き添えて、そういった厳しい意見もあるということ添えるということよろしいですか。その点については、お二人はいいですかね。（「はい」と呼ぶ者あり）では、そのようにさせていただきます。9番の観光プロモーション事業について。これは一応、令和元年度で事業終了となっておりますので、今後の方向性については評価する必要はないんですが、こ

こについて何か特記というか意見があればお聞きしますが。この事業について、特記してほしいことがあれば。

笹木慶之委員 この事業は、本市の認知度の向上や交流人口の増加を目的とした事業であります。その成果は未知数です。計画どおりに事業をしたことで、目標達成度はAとなっておりますが、それで事業効果といえるのであろうかという疑問が生じます。したがって、評価の視点がちょっと異なっているんじゃないかなということ、こういう形の評価で事業をAとすること自体が果たして妥当なんかなという疑問が残りました。ということで、これは課題ということで特記しておいてもらいたいと思います。

山田伸幸委員 観光プロモーション事業は作って終わっていると。それがやっぱり、どんどん広がっていくんじゃないですけど、そこにとどまっています。媒体としても活用されていない。それはちょっとどうなんかなと思います。

河野朋子分科会長 今、指摘がありましたのは、その事業の中身がどうこうではなくて、そもそもこの事業の評価をどのようにして成果を見るのかという視点だと思うんですよ。その辺りを多分皆さん同じように感じられて、作って終わりで作ったらA評価なのかっていうところ。そもそも何のために。これは作ることが目的ではなくて、作ることによって認知度とか市に対しての理解を広げていくということが目的でしたが、この評価表がその成果が見えるものに全くなっていないということが問題じゃないかという指摘でしたので、その辺り、特記のところに、この成果が全く見えてきていないというようなことを書き添えます。ここに活動指標を達成できたからこれで目標達成なのかという疑問を書き加えたいと思いますが、よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）その辺は一致しますね。それでは、10番の学校施設整備計画策定事業です。これにつきましても事業がもう終了しておりますので、方向性についてはま

とめる必要はないんですが、ここについて、特記すべきことが何かあれば、御意見をお願いします。

長谷川知司委員 学校で生活する時間が長い児童生徒に対しては、やはり快適な生活ということで、一つは排せつ、トイレの重要性があるんですね。ところが、家庭ではほとんどが洋式になっているのに、市内の学校では洋式が少ないということで、やっぱりトイレの改修、トイレの整備というのが一番大事だと思いますので、それは今書いてあるように上げていただきたいと思います。

河野朋子分科会長 そういった意見が出ました。計画は終わっていますが、ほかの方で、今後、これに期待したいとかいうことが何かあれば。なければ今のトイレの改善について要望を強くというようなことを書きましようか、トイレの改善。（「はい」と呼ぶ者あり）では、続きまして11番の学校司書配置事業について、今後の方向性について御意見のある方はお願いします。

山田伸幸委員 成果指標ではなくて、実際はどうだったんかというところで、やはり学校司書が兼務というところでは、図書の貸出冊数とかで明らかにマイナスが見られております。専任で子供たちとも触れ合う、そういう人間的な側面が非常に大きいということも明らかになっていますので、これはやはり人員を増員させて元に戻していく。これが今一番求められているんじゃないかなと思います。

河野朋子分科会長 拡大拡充ということですかね。

中岡英二委員 私も今後の方向性で、成果の方向性は拡充。コストの投入方向性を拡大にしています。それは、以前、この山陽小野田市の学校司書は各校1人おられて、司書の役割をしっかりと果たしてこられたと思うんですよ。やはり司書の役割というのは、読書活動、読書活動拠点、読書活

動の推進、読む力の育成とか、教員と協力して授業に沿った資料の整備とか、児童生徒、教員の情報入手といったもの。しっかりと仕事をしていただいて、各校1人ずつ、学校司書は置いていくべきだと思います。やはりデジタル化が進む中で、本を読むという本質を明確にして、長期的な視点で考えていただきたいと思います。

河野朋子分科会長 拡大拡充の意見が出ています。ほかにあれば。

奥良秀委員 私は、今後の方向性としては、現状維持、現状維持と述べさせていただきます。理由としましては、今年度からG I G Aスクール構想が始まる中、オンラインで全てのものが見えてくるという中で、実際問題、今の児童生徒、幼児も含めてなんですが、かなりのネット社会であったりとか、インターネットに精通している模様を目で見えております。そういった中で、本の温かみっていうのはよく分かるんですが、その本を買ったりとかするとかっていろいろ意見があると思うんですが、見る手段はいろんな手段が出てきておりますので、学校司書という位置づけではなくて、それプラス、学校司書の業務はそのままで、今後出てくるであろうスクールアドバイザーであったりとか、そういった補助の形もいろいろな情報発信をしていければ、ここは補えていけるのではないかなと思っておりますので、現状維持でさせていただきました。

笹木慶之委員 これは、教育委員会の口頭説明の中で、現状の検証がコロナ禍の中で十分できなかったという発言もありました。したがって、時間を限定してというような形の中での捉え方もされておりましたが、やはり事業として捉えた場合には、その本質を見極めるだけの検証ができていないと理解しました。ですから、その検証を今後しっかり進めてもらうということを前提にした中で、現状維持にさせていただきました。

伊場勇副分科会長 この事業評価に当たって、教育委員会はしっかりとした目標を持って取り組んでおられる中で、目標が高いのか、それが時代の流

れに合っていないのか、なかなか達成できていない部分で達成度はCとなっております。私は、司書を増やせばこの目標が達成できるのかというと、なかなかそれも難しいんじゃないかなと思います。抜本的な何かの施策を取り入れない限り、今の時代、読書する子は減っていくことになると思っています。今の現状を少し続けて、子供たちの環境が変わる中で、しっかりとした次の施策のために、今回、このままコストも成果も現状維持のまま取り組んで検証して、その後、また新たな取組をするために、この材料とするべきだなと思っていますので、今後の方向性、コストの投入の方向性は、現状維持、現状維持でやっていったらどうかと考えています。

河野朋子分科会長　あとは、長谷川委員はどうですか。特にないですか。（「はい」と呼ぶ者あり）意見として言わせてもらえれば、司書をきちんと配置して、従来どおりにきめ細かに1校に1人付ければ、私は子供の読書の動向は必ず上がっていくと思います。むしろこういったデジタル化が進んでいるときだからこそ、こういったことに重きを置かないと、とんでもないことになるなっていうような危機感を個人的には持っています。こういうときだからこそ、読書についてしっかりと指導できる専門家、そういう人がいないと子供はますます本読まなくなるとなっています。もともと削減には反対でしたので、個人としては、各校1名に配置に戻すべきだとは考えております。そうは言いましても、一度こういった削減の方向で検証していくと言いながら、先ほど笹木委員も言われましたが検証がまだ十分できていないという状況、それから、検証することによって、もしかしたらまた再考していくのかっていうことに対して、はっきりした答弁は頂いておりませんので、そういったことについては、今後、検証次第では、本当に元に戻す必要があるんじゃないかっていう事態にもなるのではないかと考えています。そういったことも含めて、個人的には1名配置に戻すべきと思いますが、その辺りで、二つに分かれてしまっているの、併記にしますか、これどうしますか。現状維持と拡大拡充、2か所にしますか。それでいいですか。一

つにはまとめられませんね。いいですか。(「はい」と呼ぶ者あり)今の
ような意見が色々出ていますので、はい。しっかりと検証してほしいと
いうことは大事だと思いますし、それによって、また方向性が今後出て
くると思いますので、そのようにまとめようと思います。それでは、次
の12番、学校業務支援員配置事業です。これについては、方向性につ
いてどうでしょうか。現状は5校配置です。

山田伸幸委員　そもそも、教員の過重負担を避けていくということですので、
これが大いに助けになっていると思われます。できたら、支援員の配置
によって、どういうふうに助かっているかという、もう少し現場の声が
あればよかったかなというのはあるんですけど、当然これは維持され
るべきだと思っています。

長谷川知司委員　私も山田委員と一緒に、この業務支援員というのは大事な役
割だと思います。ただ、教育委員会の中の考え方で、学校司書と業務支援
員をセットに考えているとちょっと感じたんですね。要するに、同じ枠
の中、予算の中で、司書を減らした分をこっちに持ってくるよというよ
うなことをちらっと感じたんで、そうではなくて、お互いの業務の重大
性を考えて、重要性を考えて、個別にきちんと予算を取って、必要なこ
とをやっていただきたいと思います。

河野朋子分科会長　ほかにありますか。現状維持ということで。ほかに、それ
以上の。そこの方向性については、現状維持というところでいいですか
ね。それ以外、特記事項が何かありますか。

中岡英二委員　配置校の教員の勤務時間の削減が17.6%と。やはり、成果は
出ていると思うんですね。なので、これをずっと続けていただきたい
など。意見です。

笹木慶之委員　学校業務支援員の配置っていうのは重要な案件だと思いますが、

中を見てみて一つ気になったのが、取扱いの事務ということの中で、事業概要にその他の中に「何とかなど」と書いてあるんですね。これはやはり人が行う業務で、トラブルとなる可能性が多分にある。かつて、学校におられた用務員という制度の中でトラブルが生じた経緯が実はあるんですね。だから、個人差が出てくるということで、余り「など」という表現するのではなしに、きちっとした業務内容を記載して、そういったことを避けたほうがいいと思います。ややもすると、業務外業務をどんどんさせるというようなことになりかねませんので。だから、明記した中でその範囲を決めたほうがいいんじゃないかなということです。

河野朋子分科会長 今の御意見は特記事項のところに、そういった教員とか支援員の業務を明確にして、トラブル起きないようにすべきじゃないかというようなことで書き加えたいと思います。ほかにありますか。これ、5校になっていますけど、私も審査の中で言ったんですけど、本当に5校で大丈夫なのかというか、その根拠を数値では言われましたけど、本当に事実上どうなのかというのを考えたら、さっき長谷川委員が言われましたように、本当に必要ならそこを充実させていくというか、もう予算がこれだけしかないからじゃなくて、ほかの学校の実態とかで、必要に応じて、この5校に限らず増やしていく必要もあるんじゃないかなとは感じました。したがって、その辺も少し意見として載せようと思います。この件についてはいいですね。では、13番のスクールアドバイザー配置事業について、御意見のある方。今後の方向性についてはいかがでしょうか。

笹木慶之委員 スクールアドバイザー配置事業となっていますが、要はここに人があてがわれておるわけですね。したがって、一体として人の評価につながっておるということで、余り細かく言いたくないんですけど、ただ、私も学校運営委員としてもやっておりますが、中でお会いしてお話をする中では、極めて適切であると判断しています。だから、個人に関わる問題になりますが、やはり適切な事業を運営されておると考えて

います。したがって、特記事項は特にありません。

河野朋子分科会長 現状で十分やっていただきたいということによろしいですか。ほかの方で何か御意見があれば。よろしいですか。特になければ、現状維持で進めて行ってほしいというところで、13番を終わりたいと思います。では、最後の14番のふるさと山陽小野田応援事業、ふるさと納税の件ですが、この事業について、方向性についてはいかがでしょうか。何か御意見があれば。

山田伸幸委員 カタログ等も発行されてはいるんですけど、非常に種類が多くて迷うというか、山陽小野田市にしようと思ったときに。ガラスだけでも数十あって、あと皮製品ですか、非常に種類が多くて。山陽小野田はこれだっていうのが、なかなか見えにくいというか。一番は全然違う製品で食品になっていますので、やっぱり、ふるさとの特産品開発も併せてこれまで以上に頑張られていくことも必要ではないかなと思っています。そのためにも、商工労働課と原課とのマッチアップが、これまで以上に求められているんじゃないかなと感じています。拡大拡充です。

河野朋子分科会長 拡大拡充という意見が出ました。ほかの方はどうですか。

伊場勇副分科会長 商品については、山陽小野田市だからって納税される方は比較的少なく、商品の検索、返礼品の検索から、やはり納税されて、本質がどうなんだっていう話になってくるんですが、ただ、貴重な財源でありますので、取扱う返礼品は、しっかり着実に増えてきていますし、今後も増えるであろうと思いますし、そのように一生懸命に担当課は頑張っていらっしゃるので、まず成果をもっと拡充すべきと思います。コストの導入については、今、サイトを幾つか使われて、すごいメジャーなものなのでしっかりお金が掛かると思うんですけども、更によく見せるために、写真の取り方等、やはり引けを取らないものを作るべきだなと思います。コストの面でも、少し拡充をして、更に貴重な財源を増

やしていけたらなと思いますので、拡大拡充を提案します。以上です。

河野朋子分科会長 拡大拡充の意見が出ましたが、ほかの方はいかがですか。

笹木慶之委員 私は、結論的には現状維持としましたが、もちろん願わくは拡大してほしい、拡充してほしいということはもちろん前提としてあります。現状の中で見てみますと、いろいろ取組はしておられますが、なかなか難しいというのは現実問題あるわけですね。したがって、それはそれとして着実に進めてもらうということを進めながら、やっぱり他の事業とリンクさせて、ただお願いしますというメニューをそろえて出すんじゃないしに、人の気持ちをこちらに向けるということから、やはり関係人口を増やしていく。関係人口を増やせば、おのずとそういった形で関与してもらえると方向につながると思いますので、ほかの事業も絡ませて、このふるさと納税の仕組みを進めてもらいたいと思います。ついては、企業型のサポート寄附であるとか、あるいは、クラウドファンディング事業等についても、もっともっとしっかり研究して取り組んでほしいということを要望として申し上げておきたいと思います。

河野朋子分科会長 今のは、事業に対してはそうですが、特記事項としてということですか。

笹木慶之委員 そういう思いが強いですから、強いて言えば拡充のほうが強いかもしれません。

河野朋子分科会長 そのような意見もありましたが、ほかには。

中岡英二委員 今後の方向性は、私は両方とも現状維持としております。この事業は、やはり山陽小野田市の特産品というか、そういう商品開発というのが必要になってくると思います。それを拡大に持っていければ本当にいいんですけど、まずは現状維持のままで、そういうことに取り組ん

でいただきたいと。これは長く掛かることだと思うんですよ、この市独自の商品開発っていうのは。そうした中で、やはりどちらかと言えば、私も拡大のほうになるかもしれませんが、今のところ現状維持ということで。

河野朋子分科会長　ほかの、何か違った意見があれば。現状維持にしているが、気持ちは拡大拡充だというような意見が続いております。行政側の評価についても、拡大拡充していきたいというような評価とはなっているので、そうですね、はい。よろしいですか。税金の原点に戻ったときに、これが余り過熱していくと今後どうなるんだろうっていうちょっと懸念を正直なところを抱きながら、少しそういったことを考えると現状維持ぐらいにとどめたほうがいいのかなという気持ちもあって、現状維持にしたっていうのがありますが。

山田伸幸委員　本市のカタログ見たときに、非常に健全だなと思いました。寄附額の設定と返礼品のバランスを見たときに、総務省が決めたルールは守っていると。しっかり守りながら、更に特産品を増やしていこうと。当初に比べたらものすごく増えていますからね。あとは、もう一工夫、二工夫が必要かなと感じますけれど、やはり健全に進められているし、更に頑張っていたきたいというのが、皆さんの共通した意見じゃないかなと思いますが。

河野朋子分科会長　それでしたら、ここはコストも成果の拡大拡充の方向で、分科会としてはまとめたということでよろしいですかね。（「はい」と呼ぶ者あり）返礼品についていろいろ御意見もありましたが、行政としても書いてありましたけれども、経費については総務省のルールを守っていくということが大変重要ですので、しっかりルールを守りながら、ふるさと納税額をどんどん拡大して行ってほしいというようなことで、意見として載せるということでもいいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）先ほど、企業型サポート寄附、クラウドファンディングの件も、今後、取り組ん

でいってほしいというような意見もありましたので、それも併せて特記のところに載せたいと思います。大体、以上で、事業についての評価は一通り終わったわけですがけれども、全体を通して何かあるでしょうか。これで、かなり事業の評価もしっかり分科会としてもできたと思いますので、これをまとめて委員会に提出したいと思います。御協力ありがとうございました。以上で、分科会を閉じます。お疲れ様でした。

午前 11 時 39 分 散会

令和 2 年（2020 年） 9 月 14 日

一般会計予算決算常任委員会総務文教分科会長 河 野 朋 子